一般財団法人
住友病院

Sound

vol.64
2025 WINTER

住友病院だより【さうんど】

特集 最高の人工関節手術をめざして「Mako（メイコー）」と歩んできた5年間　整形外科

●高齢者骨折センター
●連携医療機関　医療法人 天野医院
　　ふじわら整形外科
●INFORMATION

ご自由にお持ち帰りください

特集

整形外科

最高の人工関節手術をめざして「Mako（メイコー）」と歩んできた5年間

股関節やひざ関節が痛むことで、日々の生活がどれほど大変になるか、多くの患者さまが悩んでいます。歩くたびに感じる痛みや思うように動けないもどかしさ…。その苦しみを取り除き、もう一度、自由に動ける喜びを取り戻していただくために、私たちは人工関節置換術を提供しています。

当院では、2020年に大阪市内で初めて、最新のロボットアームを使った手術支援システム「Mako（メイコー）」を導入しました。このシステムによって、患者さま一人ひとりに最適な手術を行い、安全かつ正確で負担の少ない治療が可能となりました。

津田 晃佑 Tsuda Kosuke
整形外科診療部長
兼 人工関節副センター長
兼 高齢者骨折センター副センター長

川上 秀夫 Kawakami Hideo
リハビリテーション科診療主任部長
兼 整形外科診療部長
兼 人工関節副センター長

渋谷 高明 Shibuya Takaaki
院長補佐
兼 整形外科診療主任部長
兼 人工関節センター長
兼 高齢者骨折センター長

健康寿命を延ばす人工関節を正確かつ安全に

人工関節置換術は、傷んだり変形したりした骨の表面を取り除き、人工の関節に置き換える手術です。当院では、ひざ関節と股関節の手術をそれぞれ年間約100例行っています。この手術の目的は、ただ痛みを和らげるだけでなく、関節をスムーズに動かせるようにすることです。私たちは「不便な生活から解放され、日々の生活の質が向上し、健康寿命を延ばす最高の手術」をめざしています。そのため、常に質の高い治療を提供できるよう努力しています。

人工ひざ関節置換術は2020年以降、ほぼすべての手術で「Mako」を使用しています。股関節の手術でも「Mako」を使用していますが、関節の状態によっては使用できない場合があります。そのような時には2010年より導入している「コンピューター支援ナビゲーション手術システム」を使います。CTスキャンの三次元データをもとに、手術前に綿密な計画を立て、手術中も骨と人工関節の三次元的な位置をリアルタイムでモニターに表示しながら術前計画に沿って人工関節を設置します。ロボットアームが手術操作を部分的に支援するかしないかの違いはありますが、「Mako」あるいは「ナビゲーション」を手術に使用することで正確性と安全性が格段に向上します。

0.5度単位でリアルタイムに調整

ひざの人工関節手術では、ぐらつきがなく、よく曲がりよく伸びるひざを取り戻すことが目標です。そのために重要なのは、ひざの内側と外側の筋肉や靭帯のバランスです。しかし、手術前にはそのバランスを正確に把握することは難しく、実際に手術をしながら確認していくしかありません。そこで「Mako」が活躍します。「Mako」ならわずかな違いまで精密にキャッチし、骨を削る量や角度を0.5mm、0.5度単位で調整することができるのです。このように正確かつ美しく手術を仕上げることができるのは「Mako」だけです。

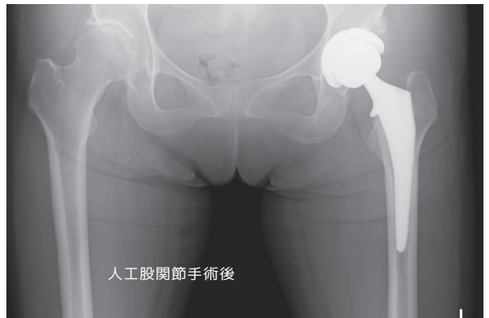
股関節の手術でも、かつては手術後に脱臼しないよう、患者さまは特定の姿勢や動きを制限する必要がありました。しかし「Mako」を使用することで、「ナビゲーション」と同様に人工関節を適切な位置・角度で正確に設置でき、脱臼のリスクが大幅に減少し、動作制限の心配がほとんどなくなります。

「楽になった」との声を聞くのが喜び

私たちが「Mako」を導入して5年が経ちました。15年にわたって使用している「ナビゲーション手術」とともに積み上げてきた経験とノウハウを活かし、高度な技術で患者さまに「より正確で安全な手術」を提供し続けています。手術後は、たとえ自覚症状がなくても問題が見つかった時には早期に治療することが大切ですので、定期的に検診を行って患者さま一人ひとりの状態をしっかりと診断しています。痛みから解放されると、生活が一変します。痛みのストレスがなくなり、希望を持てるようになると、多くの患者さまが明るくおしゃれになっていくのを見てきました。患者さまから「本当に手術してよかった」「楽になった」と感謝の言葉をいただくと、私たちの心も温かくなり、何よりの喜びです。私たちがめざすのは、単に痛みを取り除くだけでなく、患者さまが自由に動ける体を取り戻し、人生をもっと楽しんでいただくことです。快適な関節を手に入れ、再び笑顔で毎日を過ごしていただけるよう、私たちは全力でサポートします。あなたの未来を明るくするために、私たちと一緒に歩んでいきましょう！

手術支援ロボット
Mako(メイコー)

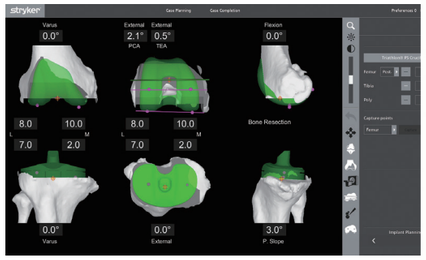
2


人工股関節手術後

人工股関節

人工ひざ関節手術後

人工ひざ関節



3
人工ひざ関節全置換術プランニング

体に負担が少ない 脊椎の内視鏡手術

加齢や外傷、感染症などで体を支える脊椎が衰えたり傷んだりすると、腰痛や歩行障害などが起きます。住友病院では、低侵襲手術をモットーに脊椎の内視鏡手術を積極的に導入しています。傷が小さいため体への負担が少なく、入院期間も短いのが特長です。

整形外科医長 兼 脊椎センター長 北口 和真 Kitaguchi Kazuma

佐原 啓太 Sahara Keita

加齢や衝撃が原因、神経が圧迫され痛みに

腰の疾患で多いのは、腰部脊柱管狭窄症や腰椎すべり症、腰椎椎間板ヘルニアなどです。中でも「腰部脊柱管狭窄症」は加齢などによって椎間板や腰椎が変形し、脊椎にある神経が通るトンネル（脊柱管）を狭めてしまうのが原因です。

一方、「腰椎すべり症」は腰椎がずれ、ひどくなると脊柱管が狭くなって神経の圧迫を引き起こします。中高年以上の方に多くみられます。

また「腰椎椎間板ヘルニア」は椎間板のゼリー状の組織（髄核）が突出することです。加齢や悪姿勢、喫煙が発症に影響があるとされ、20～40代にかけて多い病気です。

いずれも神経が圧迫されて足に痛みやしびれ、麻痺があったり、ひどい場合には尿が出にくくなったりする人もいます。

まずは投薬など保存療法で経過をみますが、症状がおさまらなければ手術を検討します。麻痺などがあれば、早急に手術が必要な場合もあります。

手術法「除圧術」と「固定術」の違い

脊椎の主な手術として「除圧術」と「固定術」があります。腰椎すべり症や腰部脊柱管狭窄症などに対応する「除圧術」では、痛みのもととなる神経の圧迫を取り除くために骨や靭帯などを切除します。内視鏡下除圧術では、内視鏡下ヘルニア摘出術と同様に親指の頭1本分、1～2㎝ぐらいの穴から内視鏡を入れて、モニターで確認しながら操作します。傷が小さく筋肉は温存されますので、多くの方は状態がよければ翌日から動くことが可能です。体への負担が軽く、1週間弱で退院される方が多いですが、数日で退院する人もいます。もし、足にもともと麻痺があればリハビリが必要になりますが、痛みだけの人はリハビリせず、普通に歩いて帰ることができます。

内視鏡手術の傷口は1～2cmぐらい

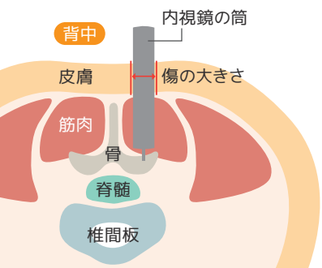
一方「固定術」は腰椎すべり症のように脊椎がゆがんだり、ぐらぐらしていたりする場合、神経を圧迫している部分を削った後、インプラントを使って脊椎を固定し、安定させます。除圧術のみでは対応困難な不安定な腰椎に対応できます。入院期間は「固定術」で切開する手術だと2週間ほどです。また骨が完全につくまでの3か月はコルセットをつける必要がある場合があります。

我慢せずに診察を

痛みがとれれば活動範囲が広がり、趣味やスポーツも楽しめるようになるでしょう。当院で内視鏡手術を受けられた患者さまで、術前は痛くて100mほどしか歩けなかった方が、術後翌日から歩行され、退院前には痛みが緩和されて当院の庭園を3kmも歩けたと喜んでいらっしゃいました。

しかし、長く痛みを抱えていた方や圧迫の強度によっては、改善が難しくなるケースもあります。早めに治療すればよくなる可能性は上がるので、痛みを我慢せずに一度診察を受けていただきたいです。痛みを除くために最適な治療法や術式を選び、納得して手術を受けていただけるよう力を尽くしています。

内視鏡手術



高齢者骨折センター

年々増加している「大腿骨近位部骨折」

「大腿骨近位部骨折」は、特に高齢者にとって非常に危険な骨折です。年齢を重ねると、骨がもろくなる骨粗しょう症が進み、少しの転倒や足の付け根をひねっただけで骨折してしまうことがあります。骨折すると、すぐに歩けなくなり、手術を受けなければ寝たきりになる可能性があります。

また、手術をしても、日常生活で杖や歩行器が必要になることが多く、時には生命予後が悪化することもあるため、社会的な問題にもなっています。高齢者の骨折がもたらす影響を最小限に抑えるためには、できるだけ早く手術を行い、リハビリを始めることが重要です。しかし、高齢者の中にはいくつもの病気を抱えている人が多く、早期手術を行うのは簡単なことではありません。

すべての高齢骨折患者さまが安心して治療を受けられる「高齢者骨折センター」

そこで私たちは、2020年に「高齢者骨折センター」を立ち上げました。このセンターは、複数の疾患を抱える高齢の骨折患者さまに対し、多職種が協力して治療にあたることを目的としています。救急搬送後、救急医が迅速に検査を行い、内科医が緊急手術に備えて全身の状態を適正にします。そのうえで、麻酔医と手術室スタッフの強力なサポートのもと、整形外科医が速やかに手術を行います。手術の翌日からは理学療法士がリハビリを開始し、患者さまが一日でも早く元の生活に戻れるよう全力を尽くします。

同時に、医療ソーシャルワーカーが家族と協力して退院や転院の調整を行い、薬剤師や管理栄養士が内服薬や栄養状態を細かく管理します。

このような強いチームワークによって、全身の状態がすぐれない患者さまであっても、質の高い治療を安全かつ迅速に受けることができます。

「次の骨折を防ぐ」骨粗しょう症外来

「骨粗しょう症外来」は、2020年に高齢者骨折センターとともに開設されました。「再び骨折しないように」と願ったり、「健康診断で骨粗しょう症と診断された」という患者さまが受診しています。骨粗しょう症は「沈黙の疾患」と呼ばれ、気づかないうちに進行します。加齢や閉経だけでなく、糖尿病や喫煙、不適切な食生活、運動不足など、私たちの生活習慣が大きな影響を与えます。また、家族に骨折歴がある場合、自分も骨折するリスクが高まると言われています。骨密度検査で骨粗しょう症と診断されれば、薬物治療を開始します。また、看護師や管理栄養士が栄養指導や生活習慣の改善を提案します。これらにより、次の骨折を未然に防ぐことができるのです。

連携医療機関のご紹介

住友病院では地域の医療機関との相互連携を密にし、最善の治療環境の実現をめざしています。
このコーナーでは、当院の連携医としてご協力いただいている先生方をご紹介します。

医療法人 天野医院

診療科目：一般内科、小児科

〒550-0014 大阪市西区北堀江4-6-8
TEL 06-6535-0475
https://sites.google.com/view/amanoiin/

院長 **天野 良亮** Ryosuke Amano

●アクセス
Osaka Metro千日前線
「西長堀」駅より徒歩5分

公式ホームページ

1979（昭和54）年開院の天野医院。北堀江エリアでは最も古い医院のひとつとして、近隣住民の方々の健康を５０年近く守られてきました。

▶前院長の時代から「赤ひげ先生」のように地域の方々の健康を診てこられたんですね。

医院としては、何でも診る「よろづや」として町のかかりつけ医の役割を担ってきました。私は、当院では2003（平成15）年から週２回外来を担当してきましたが、一昨年（令和5年）1月に父、天野良男より継承し院長に就任いたしました。

▶天野良亮院長は、消化器外科（肝胆膵）がご専門だったとか。

そうです。当院では一般内科、小児科を主に診ていますが、もともとの消化器外科の専門領域を活かし、総合病院でがん治療中の患者さまのフォローや術後の経過観察なども行っています。また、受診相談や問い合わせがあれば外傷も含めどんな疾患でも必ず診察するようにしていますが、必要時にはスピーディーに病院の専門科に紹介するよう努めています。

▶天野院長が心がけていらっしゃることは何でしょうか。

患者さまご自身やご家族が不調を抱え込まずに相談しやすい雰囲気をつくるように心がけています。また、かかりつけ医として患者さまの性格やライフスタイルにあわせた説明や指導を行い、医師としてはひとつの治療方法にこだわらずに、複数の選択肢の中からご本人が納得できる治療をすすめていくようにしています。

ふじわら整形外科

診療科目：整形外科

〒550-0013 大阪市西区新町2-15-22 花咲新町1F
TEL 06-6586-6410
https://fujiwaraseikei.com/

院長 **藤原 桂樹** Keiju Fujiwara

●アクセス
Osaka Metro
中央線・千日前線
「阿波座」駅より徒歩5分

公式ホームページ

藤原桂樹院長は大阪大学医学部を卒業後、大学病院や急性期病院の整形外科で30年以上にわたり、診療、教育、臨床研究に従事し、平成30（2018）年に「ふじわら整形外科」を開院されました。

▶藤原院長は脊椎外科領域を専門とされ、ベストドクターにも選ばれています。

近隣はタワーマンションなどの建設が進み、人口が増加しています。他府県からの単身赴任者も多く、子供から勤労世代、高齢者まで幅広い年齢層の患者さんが来院されます。
治療は、外傷をはじめ脊椎や関節の慢性疾患など幅広く対応しています。中には、私の専門領域である脊椎疾患について口コミやインターネットから検索され、専門的な相談を受けることもしばしばあります。

▶痛みについてはどのように治療されていますか。

薬物療法や注射療法、治療機器を用いた理学療法を総合的に行っています。院内には頚椎・腰椎牽引装置、低周波治療器、赤外線治療器などを設置しています。当院には理学療法士や柔道整復師は在籍していません。

▶藤原院長の治療に対する想いはどのようなことでしょうか。

「手術適用をしっかり見極めること」です。整形外科領域は守備範囲が広く治療部位ごとの専門性が求められます。患者さんの病態を的確に診断して手術適用と判断すれば、その領域の治療が得意な病院や医師を把握したうえで、適切な医療機関へ紹介することを心がけています。

医療機関の皆様へ【検査・診療予約のご相談はこちらまで】 住友病院 地域医療連携室 TEL 06-6447-3031（直通）FAX 06-6447-3052
受付時間／平日8:30～19:00

乳がん患者さまのサロン「ハピネス」のご案内

「ハピネス」は、乳がん治療やお薬のこと、副作用への対応、お食事や運動などについての勉強会など、患者さまやご家族同士が自由にお話しできる交流会です。
病気の悩みや体験などについて語り合うことで、気持ちが楽になったり、療養生活をよりよく過ごすためのヒントを得られることもあります。お気軽にご参加ください。

開催日時 2025年2月15日（土）14:00～16:00（受付 13：30～）

開催場所 住友病院　14階講堂

参加対象 当院に入院中および外来通院中の乳がん患者さまとご家族

内容 第1部　勉強会（50分）
「化学療法と口腔内トラブル（口腔粘膜炎を中心に）の対処法について」（仮）
森悠衣医師（歯科医師）・横田忍氏（歯科衛生士）

第2部　座談会（50分）
参加者同士でお話ししましょう

※サージカルマスク着用のうえ、ご参加をお願いいたします。
※詳細はホームページ・院内ポスターでご案内いたします。

参加費 無料

お問い合わせ
がん相談支援センター（担当：木村）
TEL：06-6443-1261（代表）

第9回　世界糖尿病デー開催

2024年11月15日（金）（9:00～12:00）に、11月14日の世界糖尿病デーに合わせて、当院1階正面玄関前などで「第9回 世界糖尿病デー」を開催いたしました。
当日は、血糖測定やわくわく体操など約１００名の方々にご参加いただき、糖尿病について正しい知識を持っていただくよう啓発活動を行いました。

世界糖尿病デーとは

世界に拡がる糖尿病の脅威に対応するために1991年にIDF（国際糖尿病連合）とWHO（世界保健機関）が制定しました。11月14日は、インスリンを発見したカナダのバンティング博士の誕生日であり、糖尿病治療の画期的な発見に敬意を表し、この日を糖尿病デーとして顕彰しています。
また、全世界的に糖尿病予防啓発の取り組みを継続する緊急の必要性が認識され、2007年には国連総会でも同日を記念日とし、加盟国に対し適切な国内政策を策定するよう決議されました。

2024年度 市民公開セミナーのご案内　対面およびオンライン開催を予定しています。

当院では、市民の皆さまに医療に関する理解を深めていただき、健康促進にお役立ていただくことを目的にセミナーを開催しています。参加費は無料ですので、どうぞお気軽にご参加ください。

開催日	テーマ（仮題）	担当科（予定）
2025年3月6日（木）	緩和ケアについて ～常に関わる「緩和ケア」という考え方～	緩和ケア診療部

※セミナー開催予定は予告なく変更する場合がございます。スケジュール、最新情報、申し込み方法等詳細は、当院ホームページでご確認ください。

今号の広報誌「Sound」の取材に関しては、マスク着用のうえ実施し、撮影時のみマスクを外して行っています。

〒530-0005　大阪市北区中之島5-3-20
TEL.06-6443-1261（代表）
【受付時間】8：30～11：30、12：30～15：00
“Sound”には、「音」のほかに「聴診する」「健康な」「確かな」という意味も含まれています。

住友病院は、大阪府がん診療拠点病院です。
住友病院
住友病院　検索

住友病院だより「Sound」◎発行人：金倉　譲　◎編集：西野 秀、細畠 研一、増田 亮、辻本 一樹、小島 夢輝
「こんなことが知りたい」など、本誌についてのご意見・ご感想を当院ホームページの「お問い合わせ」フォームにぜひお寄せください。よりよい誌面づくりの参考にさせていただきます。住友病院だより【Sound vol.64】2025年1月1日発行